

雨季の始まる6月。恵みの雨とともに約半年ぶりに「VOICE OF HEART」がカンボジアに戻ってきた。



雨季に入り、大地が緑に覆われ始めた



バットバン放送局スタジオの様子

第1回（バットバン:6月2日, バンテアイミエンチャイ6月3日）

2007年度、初回の放送。バットバンのDJは昨年も当番組を担当していたため、スムーズに進んだ。一方で、バンテアイミエンチャイの局では予定していたDJの不在が番組開始30分前に知らされ、急遽代役のDJを用意。打ち合わせの時間があまり取れなかったため、BGMの間違いなど気になる点が多々あった。

朗読された手紙より1通

僕はタイ国境パイリンで事故にあった地雷被害者です。今現在、バットバンのエマージェンシーホスピタルに入院しています。僕の兄弟、チャイ、モン、ノエンは今頃どうしているのでしょうか。僕の友達は何にしていますか？その他みんな元気ですか？最近結婚したばかりの僕の姪のビルちゃん、その後どうですか？僕はみんなが元気に毎日を楽しく過ごせていると思うだけで嬉しく思います。

カンポット州 ゴイル・ペーク

朗読された詩より1篇

題名：マイライフ 作者：クラチェ州 ソク・エイン

わたしは惨めさと辛さだけでできた星のもとに生まれた
枕を濡らさない夜はない
孤児である自分が本当にかわいそうでしかたない
なんて憂うつなの
がんばってもがんばっても涙しか出てこない
いつだってそう
なんて不幸な家族
父が去り、母が去り、悲しみの日々がやってきた
姉と一緒にがんばってきた
後悔なんてしてもしかたない
母はすでに他界した
雷の夜を一人で過ごすのが怖い
孤独に襲われて心臓が止まりそうになるから
昔はいつも母に寄り添っていた
でもある日、悪魔が母を連れてった
今、私は果てしない海にひとり漂流している
とても寒く、惨めで、孤独

もし母ともう一度逢えたらどんなに嬉しいことか
わたしはモダンガール
足が無いなんて信じない
こんなつらい現実なんて信じない
でもわたしの足は確かに無くなった
あの時、ほんの少し注意していれば
ああ、でも心と気持ちは前のまま
いや、きっと前よりも強くなった
わたしは前よりも一生懸命がんばっている
恥ずかしくなんか無い
見下されたって平気
でもいつか
全ての困難が消え失せ
心の底から落ち着くことができれば
そして孤独を永遠に感じなくなれば
ただただそう願う

インタビュー

ICRC (International Committee of the Red Cross)

■活動内容

ICRC はバタンバンに位置し、障害者に義足・義手、車椅子を無料で提供し、リハビリセンターも運営しています。当センターは 1991 年設立以来、毎年カンボジアの中でも特に地雷被害者の多い地域に出かけ、障害者の方々を救っています。また、センターには毎日カンボジア全国から、義足義手の修理、車椅子の修理をするために多くの方が訪れています。まず、地方へ出かけたときには、修理してもらいたい義足義手、車椅子を 3 週間後までに集めるようお願いいたします。3 週間後に同じ村に実際に修理にいきます。しかし、その場で修理不可能なときは、バタンバンのセンターまで来てもらうようお願いいたします。センターに来た患者の生活費は全て無料



で、宿舎も提供しています。ただし歩行訓練等のリハビリ訓練は、義足や義手がきちんと使えるようになるまで一生懸命に励んでもらいます。両足のない患者やポリオ患者には、退院の際、無料で車椅子を提供します。また、センター退院時には、自宅までの交通費を提供します。

■リスナーへのメッセージ

義足や義手、車椅子が必要な方、修理が必要なみなさん、我々のセンターのスタッフがあなたの村に訪問した際は、是非知らせてください。もしくは、バタンバンのセンターまでお越し下さい。

第 2 回 (バタンバン: 6 月 9 日, バンテアイミエンチャイ 6 月 10 日)

バンテアイミエンチャイの放送局ではまたもや予定の DJ がキャンセル。これも直前になって知らされた。さらに今回の代役 DJ は先週とは違う方。台本を始めて目にする彼との打ち合わせは 10 分ほどしかできなかったが、彼の技量でなんとか番組を進行させることができた。

朗読された手紙より 1 通

親愛なる両親へ！

わたしは今この瞬間をととても有意義に過ごしています。わたしは障害者のための職業訓練校 CWARS にいます。お父さん、お母さん、この番組「VOICE OF HEART」を聴いているのでしょうか？この番組はわたしのような地雷被害者の気持ちをよく表現しています。そして障害者を励まし、勇気付けます。聴いていてくれたら嬉しいです。最後に、皆さんの健康、幸福、成功を心からお祈りします。

バンテアイミエンチャイ州 ウィド・ボル

朗読された詩より1篇

題名：運命 作者：バンテアイミエンチャイ州 リー・シーウォン

俺の名前はシーウォン
足を失って嘆き悲しむ男だ
今こうして筆を執り
心のうちを綴ろう
俺の人生の真実を綴ろう
俺がまだ小学生だった頃
自分の人生に落胆していた
それでも松葉杖で何キロも離れた家から
毎日歩いて通った
困難の連続だったけど
勉強をあきらめなかった
それなのに未だに困難が俺を襲う
お金がない
学費がまかなえぬ

俺は障害者だ
でも心にハンデはない
運命は変えられる
いや、変えてやる
さよなら
学校の友達
さよなら
学校の先生
俺はCWARSで職業訓練を受けて
理容師になることに決めた
5ヶ月以内に
店を開いて自立する
自分の人生のために

インタビュー

ビヴォールさん（19歳、ポリオ患者）



僕の名前はビヴォールです。バンテアイミエンチャイ州出身です。僕が4歳のとき、高熱を出し、家の近くの医者に診てもらいました。そのときポリオ（小児麻痺）にかかったのです。障害はあっても、みんなと同じように学校に行き勉強をがんばっていましたが、高校には行きませんでした。その代わりに、障害者に職業訓練を提供しているCWARSに行き、理髪師のコースで5ヶ月間学びました。CWARSで学んだ技術は僕にとってかけがえのないものとなりました。今では理容師として1日20,000リエル（約600円、十分な額）稼ぐことができています。私のように障害をもった皆さんにも、一生懸命がんばってほしいと思います。僕でさえ仕事を見つけられたのです。だから

皆さんも同じようにがんばれば必ず自立できます。

トーウさん（26歳、地雷被害者）

名前はトーイと言います。私の出身はコンポンチュナン州ですが、現在はパイリン特別市に住んでいます。収入を得るために木を切って売ろうと思い、家族でパイリンに引っ越しました。2004年の1月、森の中へ木を切りに行っていたときに地雷を踏んでしまいました。すぐにバタンバン州の救急病院EMERGENCYに運ばれ、左足を切断しました。EMERGENCYには1ヶ月と8日間入院していました。はじめ3ヶ月間はあまりのショックで何も考えられず、家からほとんど出ませんでした。でもその後、ICRCへ行き、義足を作成し、歩く練習をがんばった結果、前と同じ職につくことができました。それでも以前のようにうまく歩けない自分に失望していま



ましたが、結局自分自身が頑張らなければ何も始まらないのだと考え始め、それからは一生懸命頑張れば、こんな自分でも障害者でない人と同じことがなんでもできる、と信じて日々、生きています。現在バイク修理を勉強したいと考えており、技術を教えてくださいと探しています。障害者の皆さん、運命を恨まないで下さい。誰かが助けてくれる、なんて考えないで下さい。自分が頑張らなければ意味がありません。少しずつでもいいですから、前へ進んでいきましょう。

第3回（バタンバン：6月16日、バンテアイミエンチャイ6月17日）

バタンバン、バンテアイミエンチャイの各放送局には、第4回の放送よりゲストDJを務める地雷被害者の2人がそれぞれ見学に訪れた。バンテアイミエンチャイの局では、今後メインDJを先週の代役DJにすることにした。ここで改めて両局のメインDJを紹介する。



左:パタンバン局DJテリー

上:バンテアイミエンチャイ局DJソンバットとCMCスタッフのピセット(手前)

朗読された手紙より 1 通

かけがえのない故郷の友人たちへ！

ミソナです、みんなお久しぶり。長いことあっていませんが、最近はどうでしょうか？僕も僕の家族も元気にやっています。ご家族は元気ですか？生活はうまくいっていますか？僕は地雷で足を失ったけどその後地雷撤去団体の MAG に採用されたあと、地雷撤去の方法を学んで、現在は実際に地雷撤去員としてがんばっています。MAG に僕が就職できたことで、僕の家族の生活は前より断然改善されました。とくに子どもを学校に通わせることができているのが大きいです、最後に、みんながこれから先の人生で成功を収め、幸せに暮らせていけることを心から願っています。

バットンバン州 コン・ミソナ

朗読された詩より 1 篇

題名：障害と歩む人生 作者：バンテアイミエンチャイ州 フ・モン

おーい、地雷被害者のみんな！
頼ってばかりの人生じゃダメだよ
そんな態度でいたら
悲嘆と後悔から一生抜け出せない
失った足はどうあがいても戻ってこないのよ
悩むのはやめにしましょうよ
地雷被害者のわたしたち
悲しみに負けないように

何をすべきかしら
それは自立
職業訓練を受けましょう
人生を切り開く 1 つの手段
CWARS はその機会を与えてくれる
先生も親切で分かりやすい
さあ、生きるために

インタビュー

MAG (Mine Advisory Group)

■活動内容

MAG はイギリスに本部を置く地雷撤去団体です。地雷や不発弾の撤去、地雷・不発弾被害者に関する情報を集め、さらに地雷被害の多い地域で村人に地雷や不発弾の回避教育を行っています。MAG は現在カンボジアでバットンバン州、パイリン特別市、バンテアイミエンチャイ州、コンポンチャム州、コンポントム州で地雷撤去活動をしています。地雷原を浄化したあとはそこに住む村人を集め、地雷とは何か、地雷被害に遭わないようにどうする必要があるかを教えています。



■リスナーへのメッセージ

地雷はどんなに古くなっても爆発する可能性は失われません。解体して売ろうなどとは決して考えないで下さい。触れるだけでも爆発の危険があります。爆発すれば死ぬか、大怪我を負って足や手を失います。失明の可能性もあります。障害者になればいくつもの試練を乗り越えて生きていかなければなりません。もちろん、困難に果敢に挑戦しながら一生懸命に生きていらっしゃる障害者の方もいらっしゃいますが、そうでない方もこれまで見てきました。とにかく、地雷には触れないことを鉄則としてください。